

# 健康医療スポーツ学部 作業療法学科

## 教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。また、大学全体として、全学部生が共通して履修する必修科目、「フレッシュセミナー」「アドバンスセミナー」においては、少人数教育を実践しています。セミナー担当教員は、各学部・学科・コースのCPに基づく学修指導の他、学生生活全般にわたる指導を行っています。これにより学生は、社会人として求められる常識や教養等の汎用的能力と、各自の専攻分野や関心領域に関わる幅広い知識をバランス良く身につけることができます。この「セミナー」は、キャリア教育の一環として、学生の様々な相談にも応じています。

### 【教育方法】

作業療法士国家資格取得を視野に入れつつ、病院や地域でのリハビリテーションで求められる知識、技術、治療者としての態度の習得ができるよう教育方法を工夫しています。1・2年次では教養科目、専門基礎科目とともに早期から職業意識を高めるため専門科目、臨床見学も導入しています。また、適宜、アクティブラーニングやPBL（問題解決型）方式の授業を取り入れ、自ら必要な知識を調べ、他学生と協力しながら問題を解決していくという、臨床現場で求められる能動的学習方法が習得できるよう実践しています。3・4年次では臨床実習とその後の学内における症例発表などを通して、更に実践的な知識と技術が身につく授業を展開しています。

### 【教育の特色ある工夫】

- ・「作業療法」とは、身体又は精神に障害のある者に対し、主としてその応用的動作又は社会的適応能力の回復を図ることを目的に行われると定義されます。当学科では、専門基礎科目の履修と並行して人間の精神機能、運動機能を理解するための専門科目をバランスよく配置しています。
- ・また、座学での学びを補完するため、臨床実習とは別に障がいのある当事者参加型の授業を1、2年次で実施しています。
- ・その他、1年次（後期）から、2年次（通年）、3年次（前期）にかけて日常生活活動の授業を配置することにより、作業療法の重要な核となる応用的動作や社会的適応能力を評価し実践する能力を修得できるよう配慮しています。